

第7回矢白別演習場・風蓮川水系土砂流出対策等検討委員会
議事要旨

1. 開催日時：平成24年11月6日（火）14:00～16:00

2. 開催場所：別海町役場 会議室

3. 出席者

【委員長】

新谷 融 （NPO法人環境防災総合政策研究機構北海道支部 支部長）

【委員長代理】

黒木 幹男 （財団法人河川環境管理財団 研究顧問 兼北海道研究所長）

【委員】

小川 巖 （酪農学園大学環境システム学部 教授）

川村 洋司 （地方独立行政法人北海道立総合研究機構さけます・内水面水産試験場 研究職員）

立澤 静夫 （別海漁業協同組合 専務理事）

眞山 紘 （社団法人北海道栽培漁業振興公社 技術顧問）

※所用のため、2名欠席

【事務局】

北海道防衛局

別 海 町

4. 現地視察

委員会に先立ち、演習場内の土砂生産源の状況及びスリット化実施ダムの視察を実施。

5. 議事の概要等

流域環境モニタリング結果の中間報告、土砂生産源対策の考え方及び今後の進め方について、事務局から説明を行い、現地視察の結果を踏まえ、以下のような議論が行われた。

- スリット化によりイトウがダム上流に遡上可能となったことは間違いないと思われるが、以下の点について検討する必要がある。
 - ・ 玉川1号ダム上流域において、産卵床数が極端に増加した要因については解釈できないことから、観測項目の追加や観測方法の再検討を行い、モニタリング精度の向上を図ることが必要である。
 - ・ 楓沢2号ダムについては、ダム下流のすり付け水路部分において水深が浅いことから、引き続きモニタリングを行い、イトウが遡上可能な水深が確保できる対策を講じる必要がある。
- 土砂生産源対策に関する基本的な考え方は問題ないことから、早急に対策を要する箇所について対策を実施する。今後は、土砂流出の量・質に関する議論をする必要があると考えている。
- 玉川1号ダム及び楓沢2号ダム以外の既設ダムの対策方針については、引き続き、風蓮川流域の環境モニタリング調査及び矢白別演習場内における土砂生産源の状況調査を行い、それら調査結果を踏まえた評価・検討が必要である。